

平成 21 年度 事業報告

長引く景気の低迷が社会に暗い影を落とし続けています。日本経済がいまだかつて経験したことのない水準に至っております。その中で、平成21年の夏に多くの国民の期待を受けて政権交代という大きな時代の変化がありました。しかしながら、新政権の発足から数ヶ月での評価は酷とは思われますが、期待と裏腹にその混迷ぶりには厳しい目が注がれております。

景気の低迷は消費の伸び悩み、所得の減少、税収の減少などをもたらし、獣医業界にもその影響を与えております。

このような社会背景においても、獣医師会は国家資格を有する職業の団体として、社会への責務を果たさなければなりません。食の安全、人獣共通感染症の問題など国民生活の安全と安心に、そして動物との共生と福祉の向上に精励する必要があります。

本年度は役員改選にあたり、新しい執行部による事業の執行になりました。狂犬病予防注射事業、適正飼育推進事業、猫犬不妊去勢手術推進事業、学校飼育動物事業、身体障害者補助犬事業などが予定通り達成されました。また、生涯研修事業等の講習会や講演会も予定通り終了しています。

猫犬不妊去勢手術推進事業については横浜市との協働による事業として進めてまいりましたが、本年度は3,000頭に拡大するとともに飼い主不明の猫については助成を増額し手実施工いたしました。また、災害時等の対応に必要な犬や猫の個体識別のためマイクロチップ装着の推進と助成事業を実施いたしました。

学校飼育動物事業については教育委員会との協働のもと、学校現場での飼育指導、飼育相談、環境整備等、年度当初には学校飼育動物担当の教員を対象に講習会を実施、年度末には学校での教育効果の報告などのパネルディスカッションを実施しました。また、高病原性鳥インフルエンザに関連しての指導や現場での検診を行い防疫に協力いたしました。

動物愛護事業は優良飼主表彰と市民フォーラムを開催いたしました。73名の優良飼主の表彰とともに『動物から元気をもらおうPart11 その名前、どうしてつけたの??』のテーマで、石田 戡帝京科学大学教授に『動物観は名前とともに』、動物ライター加藤 由子氏には『家族の一員となったペットはどう変化したか』で講演をいただき、パネルディスカッションでは会場から多くの質疑をいただき、盛会裏に終了しました。

意見広告は今回で16回になりますが、獣医師あるいは獣医師会の見解や理念の表明として「野生動物をペットとして飼うことに反対する」のタイトルで外来生物飼育の風潮への問題提起として飼育への反対意見を朝日新聞に掲載いたしました。

狂犬病予防注射事業については、会員の尽力のもと円滑に終了いたしました。

また、狂犬病予防注射事業に関連して共通感染症防御と危機管理の重要性および感染症の防御や食の安全、公衆衛生など多岐の職種にかかわる公務員獣医師の確保、処遇改善については政治連盟と協力して横浜市議会各政党に要望いたしました。

本年度事業計画の重点目標の中、獣医師生涯研修に関わる講習会等への支援と推進、共通感染症防疫推進、狂犬病予防注射の普及徹底、不妊去勢手術推進、学校飼育動物事業の推進、公務員獣医師の処遇改善と人材確保などについては次年度も継続してまいります。

以上ほうこくいたしますと共に、本年度事業の円滑なる推進と本会の社会に向けた公益性のある事業推進にご尽力、ご指導賜りました関係行政機関、各種団体ならびに会員各位に深甚なる感謝を申し上げます。